

## 『ミルクリート』ご使用上の注意・管理事項（2025.01）

AGCポリマー建材株式会社 床材事業部

弊社製品『ミルクリート』のご採用を賜り、誠に有難うございます。  
ミルクリートの外観と性能を維持し、大切な建物のコンクリート床を長期間にわたり保護するため、  
以下に準じたご使用と管理をお願いいたします。

### 1.『ミルクリート』ご使用上の注意・管理事項 …

- 1) 汚染防止のため、中性洗剤などで定期的に清掃を行い、塵埃・油脂などの付着物を取り除いてください。  
ミルクリートの塗膜表面が汚れた場合は、中性洗剤、ブラシ、ポリッシャーなどで洗浄してください。  
強力な洗剤を使用した場合は、成分が残留しない様、水やぬるま湯などでよく洗い流してください。
- 2) ミルクリートの塗膜表面が水や油などで濡れていると滑りやすくなります。  
スリップ・転倒防止のため、できるだけ小まめに拭き取り取り除いてください。  
また、滑りやすい履物で歩行しないでください。  
常に水や油が付着する環境下においては、滑り止め効果の高い作業靴のご使用をおすすめいたします。
- 3) ミルクリートの塗膜表面には、なるべく、濃度の高い腐食性物質（溶解力の強い溶剤類、腐食性の強い薬液類、  
高濃度の洗浄剤原液など）をこぼさないでください。  
  
こぼしてしまった場合は、腐食性物質が長期間塗膜に接触したままにならない様、速やかに安全な方法で拭き  
取り、または所定の方法で中和後、水やぬるま湯などでよく洗い流してください。  
こぼれたまま放置すると、揮発成分が気化して腐食性物質の濃度が上がり、塗膜が劣化したり変色したりする  
原因となります。
- 4) ミルクリートの塗膜は難燃性ですが不燃材ではありません。  
煙草の投げ捨て・もみ消し、ゴミの焼却、花火、溶接作業など、火または発火の恐れのある高熱などの熱負荷を  
与えないでください。
- 5) 製品の特性上、ミルクリートがゴム製品と長時間接触すると色の移行（ゴム汚染）が生じることがあります。  
また、染料などの着色物質、一部の印刷物などとの接触によっても同様の現象が生じることがあります。
- 6) なるべく、ミルクリートの塗膜に大きな衝撃を与えないでください。  
塗膜に大きな損傷や変化がなくとも、下地コンクリートが損傷する恐れがあります。
- 7) なるべく、ミルクリートの塗膜上で重量物を引き摺ったり、損傷を与える恐れのある形状の重量物を落としたり  
転倒させたりしないでください。  
  
ドラム缶やパレットの引き摺り、フォークリフトのフォークやタイヤの溝に入り込んだ小石などにより、塗膜表  
面に傷が生じることがあります。また、ミルクリートに接触する設置物・移動物（脚、タイヤ、キャスター、車輪な  
ど）の形状、材質、接触面積などによっては、塗膜に変形や傷などが生じることがあります。  
  
この様な軽度の傷によって塗膜の環境遮断性が直ちに損なわれるものではありませんが、長期間にわたり集  
中的に高い負荷を受け続けると塗膜が損傷し、補修工事が必要となる場合があります。
- 8) R/R'オプション工法の防滑仕上げ層は、重量物の落下や引き摺り、タイヤの据え切りなどの強い負荷が続い  
たり、集中したりすると、防滑層の突起がつぶれて失われたり、防滑層そのものが減耗し、防滑性が失われる  
ことがあります。  
  
この場合、表面の防滑仕上げ層を研削除去し、防滑仕上げ層を再施工して復旧させることができます。  
（経年変化により、修復部位と周囲の既存塗膜の間に外観上の差異が生じます）
- 9) 耐熱性を有しないミルクリート（MF/TS）の塗膜には、熱水や高温の油、高温蒸気などの熱負荷を与えないで  
ください。
- 10) 耐熱性を有するミルクリート（MM/MM-R/MM-Z/VP）の塗膜に高圧洗浄や高温蒸気洗浄を行う場合  
は、予め支障のない場所でテストを行い、塗膜に影響がないことを確認してから作業を実施してください。

- 11) ミルクリートの硬化塗膜を切断することは避けてください。切断部の両端には下地コンクリートとの高接着力を確保する欠き込みがないため、その部分から塗膜の反り上がりや剥離が生じる恐れがあります。  
流し延べ工法(MF/TS/MF-R'/TS-R')は特にこの傾向が顕著ですので十分にご注意ください。

## 2.『ミルクリート』の特性について …

- 12) ミルクリートは、コンクリート床を防護することを目的に開発された長期耐久性重視の製品です。  
施工時の環境などにより、美匠性を重視した他の塗り床材などと比べて仕上がりの質感が劣る(非貫通ピンホール、色・ツヤムラ、コテムラなど)と感じられることがありますが、認定施工士・工事店により、規定の施工要領に準じて適切に施工されたミルクリートは、その外観に関わらず正常な物性と耐久性を有します。
- 13) ミルクリートは、多角的かつ継続的な負荷から建物のコンクリート床を守るための高い機械強度を有する反面、躯体の挙動などに追従するための伸長性はありません。このため、躯体自身や構造部材の挙動、設置された機械が発する振動などに起因して、経時的に、塗膜の亀裂、浮き、剥離などが発生することがあります。  
また、施工着手前に想定され、対策を講じ得なかった事象(仕様決定時の想定を超える負荷、塗膜層の外部・下部・背面などからの水分や腐食性物質の滲入など)に因り、同様の不具合が生じることがあります。
- 14) ミルクリートの下地として適さないコンクリート以外の素材や下地(木、プラスチック、金属、その他ミルクリートとの接着が検証されていない素材で作られた備品・役物・建具類、焼付塗装などの特殊加工が施されたパネルやボード類、ポリマーセメント・シンダーコンクリートの下地など)に対してミルクリートを施工した場合、本来の接着力を得られず早期に剥離することがあります。
- 15) 流し延べタイプのミルクリート(MF/TS/MF-CF)は、硬化直後、塗膜の表面に滑りやすい成分がヌメリとなって浮き出ることがあります(この成分は人体に有害でないことを確認しています)。  
通常、硬化後数日間のうちに、歩行・走行・清掃などによってある程度取り除かれますが、それまでの間はスリップ・転倒にご注意ください。このヌメリは、中性洗剤による拭き取りや洗浄で取り除くことができます。
- 16) ミルクリートは、ウレタン樹脂を含む特性上、経年に伴う塗膜の黄変、変色、高濃度の化学物質・腐食性物質などとの長期間の接触による変色・褪色などの変化を生じることがあります。  
変化の程度は、使用環境や負荷の強度など状況によって異なるため、正確に予測することはできません。
- 17) ミルクリートは、ウレタン樹脂を含む特性上、紫外線の影響により表面が徐々に黄変・褪色します。  
黄変・褪色は、室内に設置された蛍光灯などの照明器より発せられる微弱な波長の紫外線によっても発生しますが、この現象による耐久性への影響は殆どありません(紫外線を含まない LED 照明はその他の光源よりも影響が小さく、殆ど変化が見られないことが確認されています)。  
黄変・褪色の進行速度や変化の度合いは紫外線の強度によって変化します。紫外線の影響を強く受ける屋外、採光窓などの開口部から日光が射す様な部位においては、短期間のうちに著しく変化します。  
室内に射し込む日光の影響を抑制するには、指定の表面保護仕上材の塗布、窓ガラスへのUVフィルム貼付加工、シャッターやブラインドなど遮光設備の設置などが効果的です。

## 3. その他 …

- 18) ミルクリートの塗膜表面状態を定期的に点検し、塗膜に浮き、膨れ、ひび割れ、その他著しい劣化や損傷がないかどうかを確認してください(異常が確認された場合は工事責任者にご相談ください)。
- 19) ミルクリートは、食品・飲料品・医薬品類またはその原材料など、人体に取り込まれる可能性があるものと直接接触する様な部位での使用は想定しておりません。
- 20) ミルクリート関連製品には石綿(アスベスト)・鉛を含有する製品はありません。
- 21) カタログ及び技術資料に記載のない使用条件、レイアウトや設備の変更による想定条件の変更などに関しましては、事前にミルクリート認定工事店または弊社担当部署・担当営業スタッフまでお問い合わせください。

以上